◇　北海道置戸高等学校　◇

１　本校の概要

昭和２６年４月に開校し、令和３年に創立 70 周年を迎えます。普通科、農業科設置など幾多の変遷を経て、平成７年から普通科・生活福祉科の併置校となり、その後、福祉科への学科転換ならびに普通科の閉科を経て、現在は道内唯一の福祉科単置校となっております。

本校の教育は、地元置戸町の深い理解を得て、地域と密接な連携を図りながら行っており、置戸町及び関係機関・団体から様々な支援を受けつつ、高齢社会を担う福祉のスペシャリストを養成する、魅力ある学校づくりを目指しています。

高齢者福祉施設見学の様子

２　地域との連携・協働に係る「例年の取組」について

①町内高齢者福祉施設見学

例年 7 月頃に置戸町内にある高齢者福祉関連施設、事業所を見学することによって、町内の現状を知り、福祉を学んでいく１年生に対して、福祉観を醸成することを目的として実施しています。

②小中学生・高齢者と交流

小学生との交流の様子

地元の小中学校との連携を図り、高校の実態を知ってもらうとともに、福祉に対しての興味関心や知識理解を深めてもらうように、取り組んでいます。また、高齢者との交流を通して、介護福祉士像を構築していくために、置戸高齢者大学学生をお招きしています。

③おけと夏まつり

本校の学校祭は、おけと夏まつりと同じ時期に実施しています。学校祭前日は、置戸町養護老人ホーム常楽園において、学校祭当日は、置戸町赤十字病院前と夏まつり会場において「よさこい」を演舞したり、メインイベントである「人間ばん馬」大会にも参加したりするなど、生徒の活気とパワーで夏まつりを盛り上げています。

３　本校のＰＴＡ活動

過去のオケクラフト工作の様子

本校の多くの生徒は、道内各地から寮に入り生活しているため、本校ホームページに掲載している「置高日記」や、本校公式 SNS の「インスタグラム」や「フェイスブック」において、学校の取組や生徒の様子を会員に理解してもらうように努めています。

また、例年は高Ｐ連全道大会や支部のＰＴＡ事業などに参加し、交流や情報交換を実施しております。今年度のＰＴＡ研修会は感染症拡大防止のため中止となりましたが、ここ数年は置戸町を代表する「オケクラフト工作」を通して、置戸町の良さを知るとともに会員相互の親睦を図る交流を実施しています。